



オンライン異文化交流イベントと 親子で取り組む振り返りプログラムの開発

実施結果レポート・アンケート

2020年10月以降、NAGOMI VISITでは(財)日本財団からの助成支援を賜り主に子育て家庭に向けてオンライン国際交流及び過去の国際交流経験を振り返るプログラムの開発を約5ヶ月間に渡り実施しました。本レポートでは、活動の全容と参加された方のご感想やアンケート結果、そして今後に向けた取り組みについてご報告させていただきます。

目次

1. オンライン上での異文化交流イベント	2
1. 活動実施の概要	2
1. 参加者	2
2. 交流相手国	2
3. 交流会開催日の詳細	2
2. オンライン国際交流の内容	4
1. 多くの方が興味を持っている、新しい国際交流のカタチ	4
2. 言語面をはじめとする不安も存在	4
3. イベント形式ではなく、個人対個人のコミュニケーションを実現	5
4. 有意義な国際交流の機会とは？を模索	5
3. アンケート:参加者の感想	7
4. 参加者同士の座談会を実施	12
5. システムの構築	12
6. まとめ	13
1. 目標達成状況	13
2. 失敗したこととその要因	14
3. 事業によって得られた成果	15
4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案	15

2.交流体験を振り返るプログラム開発及び オンライン上でのワークショップ開催	16
1. 活動実施の概要	16
1. 参加者	16
2. ワークショップ開催日	16
2. プログラム開発の詳細	17
1. 課題	17
2. 開発内容	17
3. カードゲームの使い方	18
4. ワークショップの開催	19
3. アンケート	19
1. カードプレイ後の回答	19
ー 感想を教えてください。	19
ー 過去のホームビジットの経験に関して新たな気づきを得ることができましたか？	20
ー 未来の国際交流を楽しみに感じたり、やってみたいことをイメージすることができましたか？	20
2. ワークショップ参加後の回答	21
4. まとめ	22
1. 目標達成状況	22
2. 失敗したこととその要因	24
3. 事業によって得られた成果	24
4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案	24
<成果物写真>リフレクションカード	26

1.オンライン上での異文化交流イベント

1. 活動実施の概要

1. 参加者

合計: 126名

- 国内在住ホスト(未就学児～中学生以上のお子さんがいらっしゃるご家庭26世帯)合計81名
- 海外在住ゲスト(20代～70代男女、子どもあり世帯を含む26組)合計45名

2. 交流相手国

合計13カ国(韓国、台湾、中国、ベルギー、フランス、ブラジル、フィンランド、フィリピン、ドイツ、カナダ、インドネシア、アルメニア、アメリカ)

3. 交流会開催日の詳細

2020年11月～2021年1月の3ヶ月間で、合計26回のオンライン国際交流が開催されました。

全日程でリストの上から順に、「開催時間」「交流相手の国」「日本側家庭の子ども年代」「交流相手の年代」を表示しています。

2020年11月

9	10	11	12	13	14	15
					<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>+</p> <p>1 10:00 フランス 小学生 子どもあり家族</p> <p>2 20:00 アルメニア 未就学児 30代女性</p> </div>	
16	17	18	19	20	21	22
			<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>3 19:00 ベルギー 小学生 40代男性</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>4 17:00 フランス 未就学児 20代男性</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>5 17:00 フランス 中学生以上 子どもあり家族</p> </div>	
					<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>6 18:00 フランス 小学生 10代女性</p> </div>	
23	24	25	26	27	28	29
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>7 18:00 フランス 小学生 70代男性</p> </div>			<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>8 19:00 ベルギー 小学生 40代男性</p> </div>		<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>9 21:00 フランス 未就学児 20代女性</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>10 17:30 フランス 小学生 40代女性</p> </div>

2020年12月

30	Dec 1	2	3	4	5	6
			<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>11 16:30 ベルギー 中学生以上 40代男性</p> </div>			
7	8	9	10	11	12	13
					<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>12 20:00 ベルギー 小学生 30代男性</p> </div>	
					<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>13 18:00 ドイツ 未就学児 20代女性</p> </div>	
14	15	16	17	18	19	20
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>14 22:00 ベルギー 未就学児 40代男性</p> </div>				<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>15 19:00 フランス 小学生 20代女性</p> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>16 18:00 フィンランド 小学生 40代男女</p> </div>
21	22	23	24	25	26	27

2021年1月

28	29	30	31	Jan 1	2	3
17 20:30 台湾 小学生 20代男性	18 13:00 カナダ 中学生以上 20代男女				20 17:00 フィリピン 未就学児 20代女性	21 9:30 カナダ 中学生以上 40代女性
	19 10:00 韓国 未就学児 20代女性					22 9:45 中国出身、日本在住 未就学児 40代女性
						23 10:00 アメリカ 小学生 30代女性
4	5	6	7	8	9	10
			24 20:00 台湾 中学生以上 20代男性		25 20:00 フランス 未就学児 30代男性	26 17:00 アルメニア 小学生 20代女性

2. オンライン国際交流の内容

NAGOMI VISIT では、新型コロナウイルスによりホームビジットの活動停止を余儀なくされてしまった2020年以降、このような状況であっても未来に向けて何とか意義ある国際交流の機会を作りたいと考えてきました。過去9年間取り組み多くの方々へ提供してきた「世界中の旅人と食卓を囲む」というリアルな経験を、そのままオンラインで再現することは難しいけれど逆にオンラインだからこそ楽しめる交流の形があるのではないかとそんな思いで実際に多くの方のお話をお聞きする事前調査を実施し、皆さんが抱えるこれらの期待、懸念、不安を元にどうすれば新たな国際交流のカチチを実現できるだろうと事務局内で議論を重ねました。

1. 多くの方が興味を持っている、新しい国際交流のカチチ

事業実施に先立ち、NAGOMI VISITに登録されているホストに向けて「オンライン国際交流」に対する興味度アンケートを実施したところ、157名の回答者のうち94%が「興味がある」と回答。「コロナ禍でも国際交流したいならオンラインしかない」「まずはオンラインで。オンラインで交流した人が、将来のリアルなホームビジットにつながる活動になってほしい」「リアルに受け入れをするよりも、オンラインであれば気軽に参加できそう」等の感想が多くあり、高い興味関心が寄せられていることがわかりました。

2. 言語面をはじめとする不安も存在

一方で、その後37名に対して実施したより詳細なヒアリングの結果では「PCや携帯のみでコミュニケーション手段が限定される環境で、自分の英語力で満足のいく会話が続けるのか?」といった言語コミュニケーションへの不安を筆頭に、ネット環境や機器トラブルへの不安、時差による交流時間への疑問、そして「何を話せばよいかわからない」というオンラインならではの高い心理的ハードルが存在することが明らかになりました。

3. イベント形式ではなく、個人対個人のコミュニケーションを実現

計画当初は参加者を募り4～5回のイベント形式で実施をする予定でしたが、検討の結果個々人のマッチングを行い、ホストとゲストが個別に交流する形に変更致しました。

背景としては、イベント形式であると参加のハードルは下がる一方、その時限り数十分の交流に限られてしまい交流の継続性が弱まることが予想され実施する意義が半減してしまうという点が懸念されたことから、個々人が直接連絡を取り合っていたいただき事務局としてそのサポートをするという形に切り替えました。

4. 有意義な国際交流の機会とは？を模索

ヒアリングによって明らかになった「言語面でのハードルがリアルな国際交流以上に高い」という観点から、主に①「日本語を学習している方々」とのマッチングをすることに。また、初対面同士であっても有意義な交流ができるよう、②事前に両者に話題のヒントをお送りし、当日もお互いに会話のきっかけとして利用できるスライド(英語とやさしい日本語併記)を提供するなどのサポートを行いました。

また、マッチングの前に事務局が参加者同士の間に入り、お互いの時差を考慮したスケジュール調整、及び当日の機器トラブル回避策などをお伝えしできる限り安心してご参加いただける環境を整えるよう努めました。



1. From what age does everyone start school? (学校は何歳から行き始める?)

2. Do you have tests at school? (学校で試験はある?)

3. What is the cost of education in your country? (教育にはどれくらいお金がかかるの?)

4. Are there after school test preparation classes or tutoring programs that kids go to besides their normal classes? (塾には行く?)

5. Are there admissions tests to get into schools? (受験はある?)

6. Do kids do any after school or extracurricular activities? (習い事はする?)

7. What do you think your country values most in education? (あなたの国が力を入れている教育は?)

8. What are the current trends in education in your country? (あなたの国の、教育に関するトレンドは?)

9. What were your favorite classes? Or subjects you were glad you studied? (あなたが学んでよかったと思うことは?)

【参考画像1: 会話のきっかけスライド】今回の事業では、特にお子さんがいるご家庭にコロナ禍における国際交流の機会を提供するという趣旨から、交流相手と子育てや国・文化ごとに異なる教育についての話題を提案しました。

やさしい日本語 と コミュニケーション

10のポイント



【参考画像2:コミュニケーション支援】ゲスト側の日本語コミュニケーションレベルはご参加者によってまちまちでしたが、事前にホストの皆さんには東京都が作成・配布している「やさしい日本語とコミュニケーション10のポイント」の動画を共有し、事前にご覧いただくようお勧めしました。(動画URL: <https://youtu.be/3mYJp-GGyVM>)

3. アンケート:参加者の感想

ここからは、実際にご参加された方から寄せられたアンケート結果をご報告します。

一 感想を教えてください

- 日本語を学んでいる方なので、子供たちも日本語を使って質問をしたり、されたり、家族みんなで楽しめました。事前に事務局から頂いていた日本語での交流動画のおかげで、こちらもわかりやすい言葉を選んだことにより、より伝わりやすかったです。
- 18:00スタートだったので、晩御飯の準備をある程度済ませ、途中で何を作っているかお見せしました。お味噌汁とぶり大根を作っていたのですが、ゲストがお魚とお野菜が大好きということで興味を持ってくれました。
- 初めての交流なのでまずは自己紹介や住んでいる町の紹介をしました。途中画面共有ができなかったので、プリントアウトした写真を用意すれば良かったと思います。

- このような機会がなければ会えなかった方と、とても楽しく会話ができた。私自身視野を広げることができ、日本語を学びたいという相手の方の役にも少し立てたのではないかと思います。
- オンラインで顔を見て直接話が出来たことは楽しかった！自身の英語の聞き取り力、スピーキング力が不十分だったため聞きたいことなどスムーズな会話のやり取りが出来なかったのが残念だった。
- やってよかったこと: 写真を見せる、料理を見せる。こうすればよかった: 質問したいことを事前に英語で準備しておく、英語を聞き取りやすい静かな環境の準備、周りで子供が騒がしい時、適宜イヤホンを使う
嬉しかったこと: 相手も写真を準備してくれて、説明をしてくれた。積極的に質問をして日本や私たちに対する関心を持ってくれた。
- コマ回しを実演してみた。動くので画面に写すことが大変だったが喜んでもらえた。ちょうど干し柿を作っていたので見せたら驚いていた。相手にフランス人はチーズをたくさん食べると聞いて、いろいろな種類の入ったチーズケースを見せてもらったことがよかった。
- お互いの自宅紹介、仕事のこと、日本で次にどこに行きたいか？など、話が弾みました。当日は子どもが離脱した代わりに夫が参加して、カップル同士のお喋りが新鮮だった。
- ちょうど夕飯前の時間帯だったので、お鍋に調理済みのお惣菜、冷蔵庫の中のお刺身などを、画面越しに紹介できるようにしておいた。
- 「やってよかったこと」⇒飾っていた家族写真の紹介。食事の準備。交流相手のパートナーさんは言葉の壁があったが、お刺身の紹介や、使っている野菜に興味をもたれていた。
- 「こうすればよかった」⇒途中で子どもも参加できるような仕掛け、例えば、相手から子どもに質問してもらう時間をとればよかった。見事に飽きてた。
- 「相手がしたことで嬉しかったこと」⇒我が家を紹介した後、「私たちの家も見ると、ツアーしてくれたこと。朝買ってきたというクロワッサンや、猫や鶏が闊歩する広い庭など、びっくりした。」
- コロナ禍において、日本(日本語)に関心を持っている海外の方と話をする機会があることは大変貴重でした。
- 主に、お互いの住む地域の特徴を伝えあったり、子どものことについて話をした。日本語が堪能なお相手だったので、お互いの言いたいことを日本語で伝えあうことができ、また相互に理解できたと感じている。私の反省点としては、コロナ感染状況について説明をしている時に、「免疫」や「集団免疫をつける」といった表現を簡単に表現するのに苦労した。今後は、交流の前に、話したいトピックについてあらかじめ簡単な日本語を準備したいと思った。
- 私たちはフランスで拳式をし、相手は日本に5か月住んでいたため、お互いの国の素敵な土地の話がとても盛り上がったのが楽しかった。30歳くらいで田舎に引っ越したいと考えている若者が多いと聞いて新鮮だった。フランス、日本に行った時に連絡を取り合うのが楽しみ。
- インドネシアの方だったので、こんばんはとありがとうをインドネシア語で言えるようにしてみました。その国の言葉で挨拶が出来たのは、相手の方がとても嬉しそうだったので良かったと思う。相手の方からは、以前日本を訪れたときに行った場所の話から文化の違いまで、様々な内容の会話が出来て楽しかった。
- SNSを通じて事前からコミュニケーションとれたことで、オンラインへの導入も順調でした。日本語を話せる外国人だったため、子供も会話しやすかったのがよかったです。
- 相手の方と話が合い、1時間があっという間に過ぎるくらい話していてとても楽しかったです。終わった後も楽しかった余韻が残っていたので、すごくいい方とペアになったと思います。
- 写真の共有(我が家のお節料理、お雑煮の写真、娘

の保育園の写真)はかなり関心を持ってもらえました！写真(動画)があると会話は続くと思います。

- 相手のやさしさが伝わり、初対面にしては話の展開がいろいろできてよかった。私は、自家製の味噌をいろんな種類作っているの、その紹介をしました。
- 面白かったのは面白かったのですが、敢えて低めの評価で感想を書かせてください。以前、オンライン英会話教室のフリートーククラスに参加したことがあるのですが、なんとなく雰囲気がある感じが、NAGOMI VISITの雰囲気にはできませんでした。いつものホームビジットも初対面なのに、そこでは堅い話も違和感なくできることが多いので、不思議なものです。オンラインの場合、少なくとも初回は、軽くて明るい話題(自己紹介、食べ物、趣味の話など)が適しているなと思いました。
- 最初は1時間も話が持たなと心配でしたが、終わってみれば1時間半近く話していました。教育の話もしましたが、それ以外に大阪に住んだことのあるかなので大阪の話や日本食の話、好きな食べ物の話、たくさん話ことができました。英語の勉強になったのはもちろんのこと、オンラインで場所をこえて繋がり合

ることが嬉しかったです。

- 日本語も英語も混ぜ混ぜで話せた。教育の話も出来て良かったですし、料理の話やカレーライスの具の話など楽しく出来ました。子どものお気に入りのぬいぐるみを見せたり、相手の興味のあることに関心をもって話したりしたことは良かったのかなと思います。相手の国のことを教えてくれたことは嬉しかったです。アルメニアで戦争が起きていたことを知らなかったので困ったというか事前に理解してあげたかったなと思いました。
- はじめてあった人とオンライン交流はマイナス点より面白いと思える要素が多い。家にいながら新たな発見は刺激を気軽に受けられるのは素晴らしい。
- やさしい日本語で会話をする経験が貴重だった。気軽に異文化交流ができた。最初に、「今日は1時間くらい話してみましょう」ということではじめたのですが、お互いに話していたらあっという間に1.5時間がたっていて、まだまだ話したりない感もあつたくらいでした。Facebookでつながったので、また予定をあわせてお話ししよう！ということで終了しました。

一 当日のお子さんの様子を教えてください

- 今回は夜20時スタートで子はほぼ寝る時間になっていたの、最初だけパジャマ姿で登場して「こんにちは！」だけ言ってもらいました
- 今までそんなに積極的に参加していなかったけど、今日は地図でゲストさんの住所を調べようとして、料理の動画を綺麗に撮ろうとして手伝ってくれる気は感じた
- 思ったより楽しんでくれて、交流中ほとんど画面の前にいました。
- 小学校の漢字練習ノートを見せて、「私も漢字を勉強しています」と紹介していました。ゲストも色々子供たちに質問してくれて良かったです。
- たまに画面を覗いたり、子供だけで遊んだり。音を立てようとしたので、そこは気をつけなければならないと思った。
- 3歳の息子は全く興味なし。10歳の娘は最初に挨拶と簡単な自己紹介をした。16歳の娘には寿司レクチャーをリアルNagomiと同じようにお願いした。楽しそうに会話していた。
- 最初の挨拶のあとは、(呼べば画面をちらっと見に来るが)、大人同士の会話だと思ったらしく、同室でテレビを見たり、本を読んだり、と自分の世界だった。
- 開始時は子どもたちは同席しなかった。事前にオンライン交流会をすることは伝えていたが、兄弟での遊

びに夢中だったため、交流の予定時間になっても自分たちの遊びを続けていた。途中からは何度か子どもも参加し、特に下の子はお相手に関心を示し何度も顔を見せてくれた。途中で兄弟遊びをしながらも参加した際は、お相手がこちらの子どもたちの自然な姿を見てほほえましい様子で「兄弟がいると楽しそうでいいね」と言ってくれていた。こちらの自然な姿を見ることができて、偶然ではあったがとても良かったと感じた。ただ、サンタクロースの質問はしどろどろと、交流が終わった後に上の子が悔しがっていた。今後の改善点として自身で反省しているようだった。

- 最初にご挨拶をしたあとは大人の話になったので、あまり参加しませんでした。
- こちら側やゲストの方のペースに関係なく、自分の好き勝手に話すので、聞こえづらかったり、少し待ってもらったり、申し訳ないと感じた。
- 最初はもじもじしていましたが、電車が好きなので持っているおもちゃを先方に見せてあげるように促してみると、うれしそうにたくさんおもちゃを持ってきて見せてあげていました。相手の方が楽しかったかどうか

かはちょっとわからないですが。。。

- 中国の教育について聞いて良かったと言っていました。
- 英語ばかりで、つまらなくなってしまうのかと心配していたが、それほどでもなく、話に加わっていた。
- 日本語を話せる方との交流であったため、全体にわたり内容を理解していたかと思います。訪問経験がある国であったことも大きいと思われます。
- 朝10時ごろだったので、朝食後ということもあり、子供たちは機嫌よく泣くことなくおとなしくしていました。ひたすら、おもちゃ遊びに没頭していた息子と、たまに私たちの様子を見に来る娘。最初だけ参加して、飽きたら隣で絵を描いていました。
- 最初は緊張していましたが、楽しそうにしました。英語はわからなかったけど、それが苦である感じではなかったのが良かったです。
- 子どもが眠そうなタイミングでしたので後半は妻と退席しました
- 本当はその日は取りやめにする予定だったので息子達には伝えてなかったのだが、挨拶だけだったが長男が嫌がる事もなく挨拶して良かった

一 今回の交流は、お子さんにとってどんなポジティブな影響がありそうですか？保護者の立場で期待することを教えてください。

- 相手の気持ちを考えて、ペースを合わせて話す練習になったと思います。コミュニケーション力向上に繋がればと思います。
- オンラインで海外の方と繋がれる楽しさを知ってほしい。会話ができればもっと楽しいことを。
- 事前に相手の情報を伝え共通点を見つけて実践的な会話につなげるきっかけになる。英会話の目的ではなく、海外在住の人と気軽にコミュニケーションが取れるということで世界とつながっていること、相手の国への興味関心などに繋がることを期待。
- こどもにとって良い影響があると思います。海外に住む人とつながれて世界は広いと実感したことと思います。
- 日本に興味をもってきている人が、こうして海外にいるという気持ちを持ち続けてくれること。コロナ禍で交流に希望を持ちにくい、アクセスし辛い状況が当たり前になりそうな時もあるが、海の向こうを身近に感じる時間があってほしい。
- 3歳という年齢もあり初対面の人にはもれなく恥ずかしがってしまう性格なので、我が子は今回のオンライン交流から何か影響を受けたりしたわけではなかったのだけれど、やっぱり親である自分自身の経験として1つ視野が広がった分、明日は「昨日お話しした人はこんな人だったんだよ」と間接的に話をしたいなと思っています。
- 世界には、文化的に、経済的に、環境に合わせてそ

それぞれのスタイルで生活している人々がいることを感じ取って(知って)ほしい。また、そういったことに触れることで自分が興味関心を持てる物事を広めていてほしい。

- 今まで何度か他の国の方をお招きしているので、追加では特に影響ないとは思いますが。ただ、コロナ禍でお招きできない中、オンラインであれば他の国の方とお話ができるので、他の国の方と話をするのが当たり前であり続けるという影響はあると思います。
- 世界には色々な国があり言葉があって、みんなつながっているんだよということが伝わればいいなと思っています。
- 日本という島国で暮らす以上、自分たちの民族以外の様々な国の人たちと交流することはなかなか難しいと思いますが、どんどん世界に目を向けて広い視野を育てて欲しいと思っています。
- まだ小さいのでそんなに影響があるとは思えない。
- 初めて会う人と話す機会があると言うことはとても良いことだと思いました。
- 異文化&英語に触れる機会になったと思います。
- 相手国への訪問意欲が増えています。外国に対する特別視が薄らぎ、グローバルな考え方を待つ様に期待しています。
- 海外や外国人に対して興味、関心が自然に出てくると思います。個人的にはここが一番肝心のポイントだ

と思っています。私はOnlineで英会話を習っているのですが、娘はその様子をいつも見ているせいか、英語にすごく関心を持って、自分から英語をまねしてしゃべろうとすることが最近多くなりました。保護者の様子を見て、子どもたちは自然に影響を受けています。

- Inclusion & Diversityに関してはまだまだ日本は発展途上国なので、ネットが発展した現代でこういう交流ができるのは、外国人に対して恥ずかしいと思わないきっかけにつながると期待しています。
- 英語が話せると便利だよ。とは常々、子供には言っている。実体験として、親が英語で会話している姿を見せつけるのが一番効果的だと思います。また、相手側に、こちらと同じ年代のお子様がいる場合も、共通話題の学校などの話題ができ、とてもいいと思います。
- 今回はあまり関心がなさそうでした。知らない人とオンラインというのが理解できなかったと思います。
- 海外の人とコミュニケーションを取ることが楽しいと思えるようになるかなと思います。
- 国際交流の体験を早期から体験を積み重ねていける事はとても大切だと思います。普段は日本語でコミュニケーションを取っている両親が誰かと英語でコミュニケーションを取る姿を子供に見せることは良い教育になると思います。

4. 参加者同士の座談会を実施

全参加者の交流が終了後、有志の皆さんと座談会を開催しました。座談会の様子は別途NAGOMI VISITの公式ブログ上でご覧いただけます。

▽ブログエントリー「オンライン国際交流のミライについて語る会を開催しました」

<https://nagomivisit.jp/2021/03/02/compara-zadankai/>

ご参加者の中には、最初のオンライン国際交流以降相手とSNSで連絡を取り続けていたり、中には定期的にzoomで会話を続けるなど良い友人関係が続いている方が少なからずいらっしゃり、オンラインという手段であっても国を超えて良い友人関係を構築できることがわかりました。

また、座談会の様子を当日参加しなかったホスト会員に後日動画シェアの形で共有したところ、「我が家もオンライン国際交流をしてみたくまりました！」という声も寄せられるなど、直接本事業に参加しなかった家庭へも価値を広げることができました。

5. システムの構築

会員へのヒアリングと26組の国際交流を実施したことを元に、オンラインで交流したい日本人側と外国人側が各自で交流相手を募り交流機会を得られるシステムを構築しました。

今後、withコロナ時代・アフターコロナ時代システムを利用しより多くの方にオンラインでの国際交流機会を提供していきたい考えです。成果が実現するまでにはある程度の時間を要することになりますが、約3年後の2024年3月頃には月間50組程度の参加者がシステムを利用し定期的にオンラインでの国際交流を経験している状態を目指します。

Compara [Home](#) [Search](#)
 NAGOMI VISIT

Agustin Caballero
60代 男性

<u>国</u>	パラグアイ
<u>タイムゾーン</u>	merica/Santa_Isabel (-08:00)
<u>母国語</u>	ウイグル語
<u>英会話レベル</u>	初心者
<u>日本語レベル</u>	ネイティブ

自己紹介

Hi!, i'm Agustin Caballero

こんな相手とオンラインで交流したい!

...

興味関心タグ

アート
アウトドア
映画
スポーツ
園芸
釣り
読書

1. 相手と話してみたい話題を5つ選ぼう

アート x 読書 x 釣り x
x | v
2. 交流したい日時を3つまで選ぼう
 - 第一希望

-
 - 第二希望

-
 - 第三希望

-

リクエストを送信する

6. まとめ

1. 目標達成状況

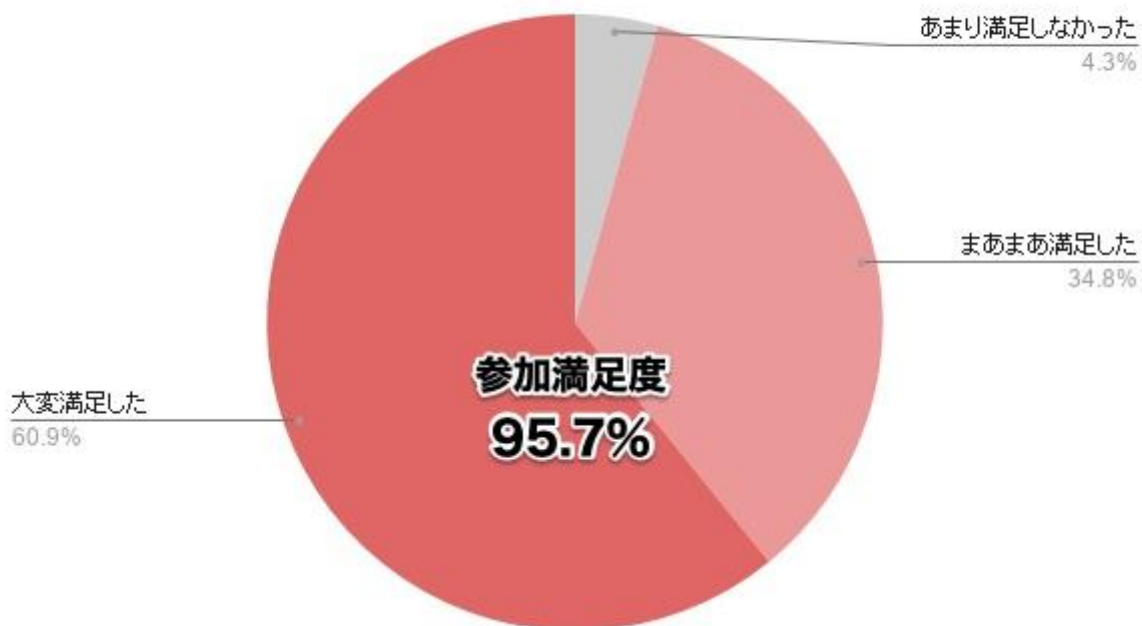
目標1: 参加者数:ホスト30組、ゲスト30組(3名/組)以上

参加した世帯は26組と、目標の30組に届かず86%となりました

目標2: アンケートによる参加満足度:80%以上

「大変満足」「まあまあ満足」合わせて95%以上となり、目標を上回る結果となりました

今回、オンライン国際交流を経験してよかったですか？満足度を教えてください。



目標3: 事業1.に参加したホストへの調査: 会員継続意向80%以上

オンライン国際交流に参加した会員の継続意向は100%と目標を達成しました



2. 失敗したこととその要因

事業の目標であった参加者30組に届かず、26組にとどまった要因としては、以下が挙げられるのではないかと考えています。

参加ニーズの仮説と現実乖離があった

- 事業計画時には、新型コロナウイルス感染症の影響でリアルなホームビジットを中止せざるを得なかったホストとゲストに参加ニーズがあるのではないかとという仮説から、該当する71組を参加者として仮定していましたが、この中からの応募者は2組にとどまりました。
- 不参加の理由をヒアリングしたところ、リアルで交流を望んでいた人同士であっても、手段をオンラインに変えると必ずしもニーズとマッチしないことがわかりました
- また、「オンラインで国際交流してみたい」という想いがあっても、現実的に考えると自身の言語スキルへの不安を筆頭に慣れない環境に対する負担が大きく感じられるというユーザーの心理的ハードルが目立ちました。

3. 事業によって得られた成果

(1) 新しい形の国際交流を提供したことにより、会員の継続意欲を高く保つことができた

コロナ禍で国際交流が皆無になっていた家庭にオンラインという新しい手段での国際交流機会を提供でき、結果として会員の継続意欲を保つことができました

(2) 心理的なハードルを解決するための新たな切り口を発見することができた

参加者へのヒアリング活動を通じて「言語の壁」という大きな心理的ハードルが明らかになり、解決策として日本語学習者との国際交流という新たな切り口を得ることができました

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

・オンラインで国際交流するというスタイルの啓蒙

オンライン会議システムは気軽なツールである一方で、その行為そのものがまだ一般的とはいえず、多くの方にとってまだまだ戸惑いがあることがわかりました。今後は参加者の経験談を広く周知することで人々の心理的なハードルを下げ、オンラインで国際交流をするという新しいスタイルへの理解や興味関心を広げていくことが課題だと考えています。

・日本語を利用した国際交流の重要性を周知し参加者を募る

国際交流といえばコミュニケーション手段として英語を活用することが多くの人々にとって一般的な感覚ですが、非日本語母語話者と日本語で会話をする経験は、今後ますます多文化共生社会となる日本において全ての人に必須スキルとも言えるため、今後はこの点についてもより周知し、具体的なアクションとしてオンライン国際交流への参加を提案していけたらと考えます。また、世界に385万人いると言われている日本語学習者にこのオンライン国際交流システムを周知していくアプローチも課題として挙げられます。

オンラインという環境での国際交流を持続可能な事業として継続していくにはまだまだ検討すべきことも多くありますが、今後もNAGOMI VISITのビジョンである「すべての人がグローバル市民として暮らす日本社会」の実現に向けて引き続き取り組み、アフターコロナの時代にも既存のホームビジット事業と合わせて1人でも多くの方にご参加いただける機会作りを努めて参ります。

2. 交流体験を振り返るプログラム開発及び オンライン上でのワークショップ開催

1. 活動実施の概要

1. 参加者

合計:31家族 (小学校中学年程度の子どもがいる家族)

2. ワークショップ開催日

計画では1回実施の予定でしたが、子育て家庭への参加しやすさを優先し合計4回実施しました。

1. 2021年3月20日(土) 21:00~22:00
2. 2021年3月21日(日) 10:30~11:30
3. 2021年3月27日(土) 21:00~22:00
4. 2021年3月30日(火) 12:00~13:00

2. プログラム開発の詳細

1. 課題

2011年から私たちが運営をしている「世界中の旅人と食卓を囲むホームビジット」は、会員であるホストがホームビジットの受け入れを通じ、世界中から日本にやってくる多様な人々との出会いや交流、そこから生まれる友人関係といった経験を積むことで、各々がグローバル市民として成長ができ、「すべての人がグローバル市民として暮らす日本社会」というビジョンを目指すというものでした。

一方で、経験学習理論(デイビット・コルブ)によると人は単に経験するだけでなく、自らの知識や体験、感情などを見つめ、意味を構築するプロセスを経ることで学習し成長することができると言われています。経験の振り返りは、価値観が多様化し変化が激しい現代社会の中で、他者とかかわりあいながら自主的に生き、学び続けるために必要な取り組みです。

これまで会員であるホストからは「ホームビジットの経験を通じ、親も子も多様な価値観に触れよい刺激を受けている」という感想が多く寄せられていましたが、特に子育て世帯の日常は忙しく、親子で振り返る時間をもつことが困難であるという課題がありました。

そこで、新型コロナウイルス感染症の影響でホームビジットの受け入れ活動ができず自宅にすることが多いこの時期だからこそ、家族みんなで過去の経験を振り返り、特に子ども自身が自分の受け入れ体験を客観的に振り返ることができるカードゲームを開発しました。また、カードゲームを通じた振り返りの経験を他のホストと意見交換することで視野を広げたり、未来の国際交流への次のアクションを考えることを目的にワークショップを開催しました。

2. 開発内容

ホームビジットの受入れを経験した親子が、その経験を未来の国際交流につなげられるよう、ゲーム感覚で振り返る/対話することをサポートする、リフレクションカード「MOMO」。教育コンテンツ系の制作に長けたデザイナーや、異文化コミュニケーションの分野の専門家の意見を伺い、効果的なリフレクションプログラムの内容を検討した結果、カードには、ユネスコが策定するグローバル・シチズンシップ教育(GCED)のフレームワークを参照した問いや、国際交流に関係した問いが書かれています。また、開発の途中では今回対象となる年齢のお子さんがある家庭にモニターとしてご協力いただき、ユーザーの声を反映させながら完成しました。

忙しい日々の中で、ふと立ち止まって心の声に耳を傾け、対話という豊かな時間を親子で過ごす--ミヒヤエル・エンデの著作、「モモ」の主人公であるモモのような存在になれたらと願いMOMOと名付けました。



3. カードゲームの使い方

所要時間: 20分程度

人数: 2~4名程度

カード枚数: 過去のホームビジットを振り返るカード12枚、未来の国際交流をイメージするカード17枚、自由に問いを追加できるカード6枚

山札から取ったカードに書かれた問いを読み上げ、自分が考えていることを相手に想像してもらうゲームです。「私がゲストと過ごしていて、驚いたことはな〜んだ?」とクイズ形式で相手に提示することで、自然に経験を振り返ると共に、相手の気持ちや思考を想像する、深いコミュニケーションを創出します。お子さんが過去のホームビジットの受け入れ時に積極的に参加していなかったり、当時のことをよく覚えていない場合にも活用いただけるように、国際交流全般に関する内容も含め、未来の国際交流について考えることができるよう工夫しています。



4. ワークショップの開催

1時間のワークショップは以下の構成で実施しました。

1. チェックイン

MOMOを活用した参加者同士自己紹介

2. インプット

MOMOを実施された各ご家庭のアンケート結果の共有／親子での国際交流を楽しんでいるホストの例のご紹介

3. アウトプット

2つの問いに基づき、各ご家庭での親子での国際交流の在り方を考えるディスカッション

4. チェックアウト

親子での国際交流について共に考え体験する機会のアイデアをシェア

3. アンケート

1. カードプレイ後の回答

一 感想を教えてください。

- 自分自身の過去の振り返りにもなって、よかった。
- MOMOを機に久しぶりにひとときの一緒に時間を過ごせました。わが子は平凡な子たちなので、ゲームやポケモンに関する答えがほとんどを占めてたので

- これからもっと視野を広げてもらいたいと思いました。
- 早くナゴミが再開され、各国の皆さんと交流再開したいと改めて思いました。

- 久しぶりに、家族全員で楽しめた。
- 忘れかけていたホームビジットの楽しかった思い出を再度確認して子供達と一緒に思い出してゲストの事やお土産の事など話せた事がとても良かったです。
- またホームビジットをやりたいって思いました！
- コロナの世の中で国際交流の事が頭からすっかり消えてきてしまっていたのですが、カードのお蔭で何か前向きに考えて行けそうです。有り難うございました。
- 家族と振り返る機会となった。
- 振り返りツールとして、親しみやすい。より具体的な、簡易な質問があってもよいと感じた。
- カードゲームは子どもも好きで、食いついていました。
- Nagomi用語(ホームビジットとか、ゲストとか)の子ども向け解説があると、よいなと思いました。
- 7歳には難しいかと思ったけれど、意外にすぐにルールを理解して楽しんでいた。
- HVから暫く遠ざかっている今、過去を振り返り、未来の事を話す事で改めて国際交流に対するモチベー

ションがあがったと思います。

- 未来と過去のどちらもやろうよ、と誘ったのですが、過去を振り返るのはめんどくさい...とはっきり言われ、断られました…。その後、未来の設問を半ば無理やりやらせてみたら、のってきて、最後まで楽しくゲームをできました。ちょっとした空き時間にやるのに良いゲームかな、と思いました。学校の授業で使うのも良さそうです。
- ホームビジットは1年以上前に受け入れていたので子どもが覚えておらず、3ヶ月前にホームステイを受け入れた留学生との交流についての体験でMOMOを実施しました。まずは記憶だけでチャレンジして、意外と覚えていることに驚きました。その後ホームビジットの写真も見せながら国家の絵本を取り出してきてどんな国から来た、や、また来てくれるといいねなどの話で思っていたよりも盛り上がり良かったです。
- みんなが自分の思いを考えて伝えることができてよかったです。このような機会をありがとうございました。

一 過去のホームビジットの経験に関して新たな気づきを得ることができましたか？

- どんな風なことをすれば喜んでくれたか、思い出すきっかけになった
- 過去のホームビジットの写真も見ながらプレイしていたので忘れてたことも思い出しました。こんな料理出したとか、お土産にもらったナフキンを日常で使ったりしてるとか。
- じぶんが忘れていたことを家族が覚えていたり、改めての振り返りになった
- 子どもが自分が思っていたことと違う視点を持っていたことに気づけた。
- 多くの友人が世界にできていることに気がついた。ま

た、ホームビジットを始めてから、視野が広がったと感じた。

- ゲストとの思い出を振り返れた
- ゲストのこと覚えてないって言ってたけど、写真見たり、カードの質問をかんがえたりするうちに自然に端々を思い出したようでした。
- 過去よりも未来を考える方が楽しそうだった
- ホームビジットが楽しかったので思い出したいと思ったからです。
- 色々なホームステイをしていた学生を思い出すことができた。

- ゲストの食事の際の習慣について話していた
- 子供達が、思った以上に楽しんでいてくれたことを感じた
- 振り返ってみると楽しい方が沢山あった
- 4歳児にはまだ少し難しいように感じた

一 未来の国際交流を楽しみに感じたり、やってみたいことをイメージすることができましたか？

- この先どんなことをイメージして、ゲストを迎えたいかわかった。
- 実際に交流したときに、どうしたいかを想像することができた。
- ホストではなく、ゲストとして初めて対面したときの相手のリアクションとか想像してしまいました。
- 自分がゲストになったら、という質問に明確に答えていた
- 行きたい国、やりたいことが出てくる
- 次のホームビジットでゲストとどんなことを話そうかのイメージトレーニングができた
- コロナ禍でストレス溜めているので将来の明るい未来を予想できた
- コロナが落ち着いた未来を想像して家族で行ってみたい所や会いに行きたいゲストの話ができた。
- せっかくなら両方トライしてみようと思ったからです。
- 次にゲストをお迎えする時にこんなことをしたいという具体的な話ができた。
- どちらともいえません。今まで多くのホストファミリーをしてきたので、国際交流を受け入れる側で自分が行く側についてはあまり現実感がわかenかった。
- 未来の旅を思い描ける質問が多かった
- ワクワクする気持ちになれそうだったから。
- 楽しそうに、どの国で、何をしたいか、答えていた
- 自分がどんなことを伝えたいか、どんな風にゲストとふれあいたいのか、子供自身の振り返りにもなっていた。
- これからまた国際交流ができればいいなと思った
- 未開の地に興味がわくのか、インド洋の北センチネル島へ行ってみたいと言っていた。半分冗談だと思えますが(笑)
- こどもが楽しそうに語っていた
- 将来の明るい未来を予想できた
- カードで息子と会話が盛り上がったし、意外とよく覚えていた。息子に聞いたら、もちろんまたやりたいと答えた。
- 未来のカードも楽しそうだった。
- 具体的に自分の考えを言えていた

2. ワークショップ参加後の回答

一 MOMO及びMOMOワークショップはご自身にとって有意義な体験となりましたか？

- 他のホストのご家庭の話が聞けてよかった。
- なるほどと思うこと様々あり楽しめました。
- 他のホストのみなさまの意見が聞け、共感すること、
- zoomを使つての意見交換を初めて体験して国際交

流に興味のある人達のお話が聞けてとても刺激になりました。

- 他のホストの方とお話できて共感できる事がたくさんあったので。
- 直接、Nagomiのお二人、ホストの方とお話することが出来た。
- 振り返りの貴重な機会となりました。
- 色々な意見を聴き視野を広げることができた。
- 過去の体験をもっと思い出したし、司会の方の声かけで考えを深められた
- オンラインなので、居住地に関係なくお話ができるのは良かった。1時間だと話を掘り下げるには短く感じました。
- このような機会に初めての参加で不安がありましたが、小人数であったため気後れすることなく楽しめました。
- zoomだったので緊張する事も無く初めてお会いする方達とも交流が出来てとても楽しかったです。1時間

があっという間に終わってしまい、他のホストの方のホームビジットの体験のお話を詳しく聞きたかったです。子供達も楽しかったと言って喜んでいました。

- 進行がとてもわかりやすく、参加して楽しかったです。また、娘が家族に対して思っている事を知れて嬉しかったです。
- ホームビジット以外の企画をナゴミビジットが考えていることを知ることができて今後に希望が持てた。以前のような活動ができるまで、道のりは長いと思うが、色々な方法を探りながら、国際交流を楽しんでいきたい。また、今までホスト同士の交流などに参加してこなかったが、これからはもっと積極的に参加していきたいと、感じた。
- お話できて楽しかったです！
- 思っていたのとは少し違いましたが、大変楽しい時間でした。
- 楽しかったです！遅れての参加で申し訳ございませんでした。

4. まとめ

1. 目標達成状況

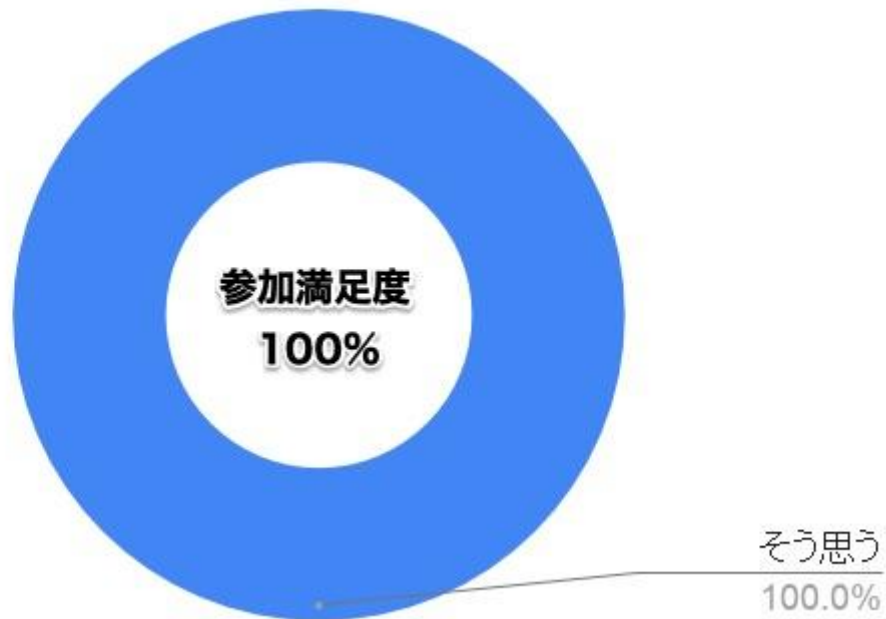
(1)ワークショップ参加者数:ホスト50組(2~3名/組)以上

参加した世帯は31組と、目標の50組に届かず達成率は62%となりました

(2)ワークショップ参加満足度:80%以上

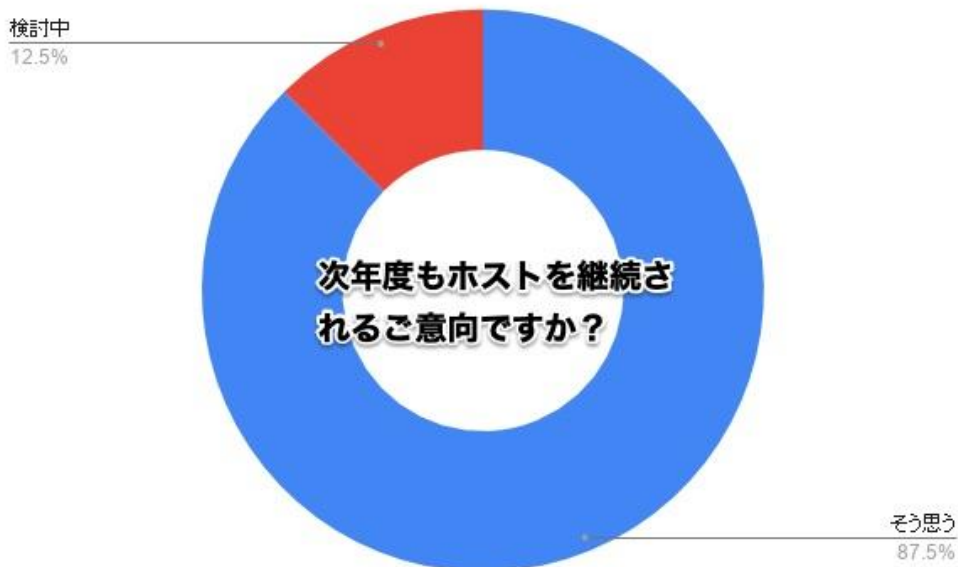
「有意義な体験だった」という回答が100%と、目標を上回る結果となりました

MOMO及びMOMOワークショップはご自身にとって有意義な体験となりましたか？



(3)事業2.に参加したホストへの調査:会員継続意向80%以上

振り返り事業に参加した会員の継続意向は87.5%と目標を達成しました。また、検討中と回答された方々も「次年度は子どもの受験等で難しくなりそうだが余裕があれば参加したい」とのことで、環境が整えば再度会員としての継続意向は高いことがわかりました。



2. 失敗したこととその要因

事業の目標であった参加者50家族に届かず、31家族にとどまった要因としては、以下2点が挙げられるのではないかと考えています。

- 日程確保の難しさ
 - 緊急事態宣言下で先行きの予定を立てにくく参加者がワークショップ参加日程を確保しにくい状況だったこと
- 対象者への動機付け不足
 - 事業実施スタート時から、以下の通り折にふれて会員の皆さまにテキストや動画を通じ事業意図をお伝えしていたものの、「振り返りの重要性」や「子どもを巻き込んだプレイフルアプローチ」といった子育て世代に対するベネフィットを伝えきれておらず、参加に至る動機付けが弱かったことが要因として考えられます

3. 事業によって得られた成果

本事業によって以下3点が実証でき、カードゲームというプレイフルなアプローチが親子での国際交流を振り返る際に有効な手段であることがわかりました。

●対話による新たな発見につながる

家族と一緒に経験したにも関わらず経験そのものだけではお互いに理解できていなかったことも、対話をすることで新たな発見につながる(ex:我が子はそんな風感じていたんだ！という保護者の発見)

●未来に向けた意識醸成につながる

経験学習モデルに沿って内省的な観察を言語化し、さらに能動的な試みとして未来に想いを馳せることで、今後の国際交流に対してよりポジティブになれる

●他者との情報共有によるグローバル市民意識の醸成

個々人の振り返りと体験者同士の対話をセットにすることで、国際交流体験の価値をより深めることができグローバル市民として成長できる

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

●「振り返り」に対する理解度を高める必要がある

本事業への参加者を募集するにあたり、会員への興味度をヒアリングしたりテキストや動画で説明をするなど、周知を図ったものの、「今のところどういう内容なのかよくイメージができないので自分が参加したいかどうかなんとも言えない」という回答が目立ちました。

一方で、参加した方々からは「やってよかった」という高い満足度の声が聞かれたことから、今後、今回の参加者の声を広く発信するなどして過去の経験を振り返ることの有用性をさらに伝えていきたい所存です。

＜成果物写真＞リフレクションカード









